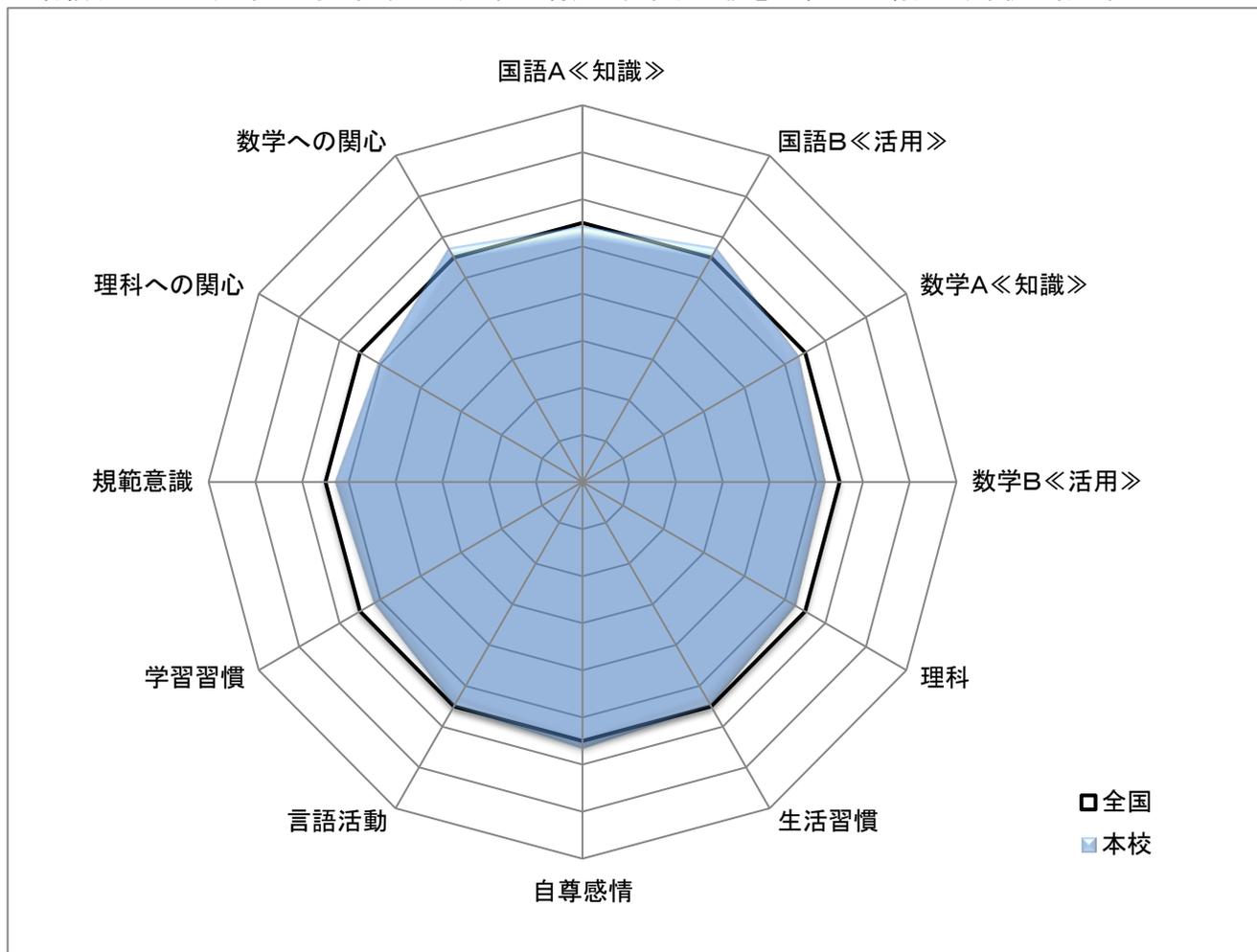


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】活用する力はあるものの、短答式に苦手意識をもつ生徒が多い。原因は、基礎的な書く能力漢字の書き取り、話しを聞き取り適切に受け答えをする力が低いためであると考えられる。
 【数学】数学A・Bを通して、特に「関数」の領域が低い。授業の様子を見ても関数の分野になると、苦手意識をもつ生徒が多くなるので、それが反映している。また、全体を通して、記述式の問題に弱い傾向がある。
 【理科】自然現象に対してあまり興味がなく、何も考えず実験を単なる遊びと考え、結果から考察する能力が欠落した生徒が非常に多い。

《授業改善のポイント》

【国語】話し合い活動をする場合は、事前に意見を書かせ、発表、メモをとるという方法で話を聞く姿勢を身につけさせる。授業の単元内で作文を書かせる際には、段落ごとの役割を適宜確認する。辞書を使用する等し、「漢字が分からない」という感覚をなくし、「漢字を書くこと」を身近に感じさせる。
 【数学】「関数」の領域を行う際は、1・2年生との関連内容をしっかり復習して、丁寧な授業を行う。また、答えを出すだけでなく、自分の考え・導き方を書くよう徹底する。なお、数学への関心は比較的高いので、継続させるような授業を続ける。
 【理科】筋道を立てて系統的に物事を捉えられるようにしたいが、まずは読解力、表現力を身につけさせる工夫をしていく。

《チャートの特徴》

全体的に全国平均とほぼ同じである。「自尊感情」は平均を少し上回っているため、これからの進路選択にもくじけずに前向きに望んでいけるよう、気持ちを大切に教育活動をしていく。学習面に関しては、家で学校の宿題は行いが、自学自習は行わないという結果が明らかになった。このことにより、「学習習慣」が平均よりも低いので、与えられた課題以外にも自ら苦手なものに取り組んだり、興味ができたものを深めようとする姿勢を身につけさせていきたい。また、「数学への関心」は比較的高いので、継続させていく。一方で、「理科への関心」が低いので、授業を通して、理科は身の回りにあふれている現象であり、理科的思考を使ったものがあふれているということを意識させ、興味をもたせていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭での学習を計画的に、習慣化されるよう、支援をお願いする。
- ・ボランティア活動や、地域の行事には、全国と比べて積極的に参加している生徒が多いので、このまま継続するよう声掛けをし、「地域ふれあい面接」などを通して、地域から見守られている安心感を与えて頂き、引き続き協力をお願いする。